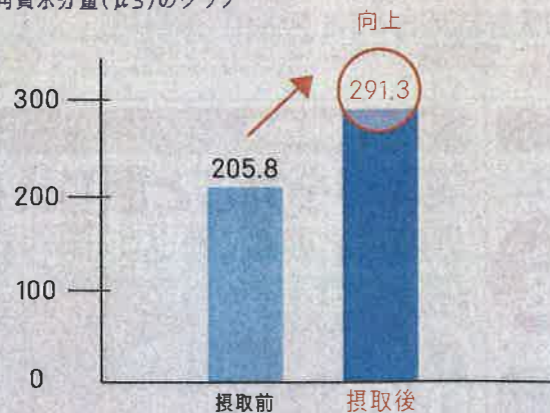


NEW

## 肌荒れの改善に関する研究

最近、食生活の乱れやストレスなどが原因で、便秘に悩む女性が増えています。昔から、おなかと肌の関係は、切っても切れないもの。腸内環境を整えることで、肌の調子も改善することが明らかになってきました。便秘気味で肌荒れが気になる30~49歳の女性に、GG株(顆粒)を4週間摂取してもらったところ、便秘症状の改善がみられました。それとともに、肌荒れや乾燥が気になっていた肌に回復が見られ、水分保持や色むら、毛穴などの状態も向上しました。<sup>※2</sup>

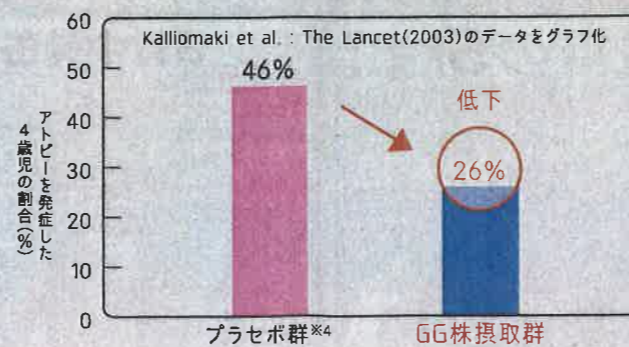
頬の角質水分量(μS)のグラフ



## アトピー性皮膚炎の早期予防に関する研究

先進国で急増している、新生児のアトピー性皮膚炎。実は、赤ちゃんの免疫力と母親の腸内細菌は関係が深く、母親がよい腸内環境を保てば、赤ちゃんのアトピー性皮膚炎の早期予防につながるということがわかってきました。本人または家族にアトピー発症歴のある妊婦さんに、出産予定の2~4週間前から産後6か月まで、GG株(粉末)を摂取してもらったところ、子どものアトピー性皮膚炎の発症率は半減しました。さらに、その効果は4年後も有効であることがわかっています。<sup>※3</sup>

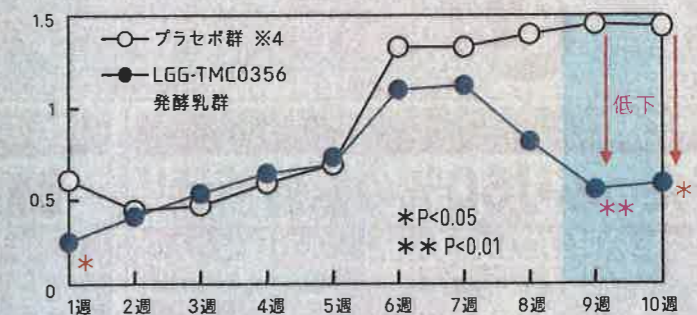
アトピー性皮膚炎発症割合の比較



## 花粉症の症状軽減に関する研究

春の訪れとともに、多くの人を苦しめる花粉症。今や、日本人の約6人に1人が悩まされています。その原因は、花粉だけではなく、腸内にいるアレルギー反応を抑制する菌の減少が関係していることがわかってきました。GG株とTMC0356菌を含む発酵乳を花粉症患者に10週間摂取してもらったところ、プラセボ群<sup>※4</sup>と比較して、アレルギー反応を抑制する菌が腸内に増え、花粉症からくる鼻づまりの自覚症状が改善されるという結果が出ました。<sup>※5</sup>

LGG-TMC0356 発酵乳の摂取による鼻づまりの自覚症状への影響



※TMC0356菌は、タカナシ独自の研究により健康な成人から分離された乳酸菌。

※1 医学文献データベースPubMedにて、他プロバイオティクスの論文数と比較。(2017年9月末現在) ※2 Kenji MIYAZAWA et al. Jpn.J.Lactic Acid Bact. Vol.28, No.1 12-17(2017)

※3 Kalliomaki et al. The Lancet 357: 1076-1079(2001), Kalliomaki et al. The Lancet 361: 1869-1871(2003) ※4 プラセボとは、薬効はないが、実験や臨床試験の際に対照剤として使用する偽薬のこと。

Takanashi



タカナシ乳業株式会社

〒241-0023 横浜市旭区本宿町5番地



広告

# なぜ乳酸菌ラクトバチルスGG株は

(※以下、GG株)

# 世界で最も研究されているのか。

※1



それは、GG株がさまざまな効果を持つことが期待されているからです。

腸の働きを良くすることで注目されている、乳酸菌。それ以外にも、さまざまな健康と関係があることをご存知でしょうか。例えば、世界で最も研究されているヒト由来のプロバイオティクス「GG株」。生きたまま腸に届き、長くとどまって、腸内環境を整えるのはもちろん、肌荒れやアトピー、花粉症などの予防・改善に関する研究が報告されています。GG株から未来の健康の可能性が広がってきています。

セポ・サルミネン教授(Prof. Seppo Salminen)  
フィンランド・ツルク大学  
食品化学教授・機能性食品センター長  
オーストラリア・メルボルン大学 客員教授 理学博士  
GG株研究第一人者



「ピリ」という線毛を、乳酸菌で唯一持っており、腸内で長く働くことができる。

GG株の線毛(ピリ)  
Represented with the kind permission of Antoni Hendriks,  
Matti Kankainen & Willem M. de Vos-Utrecht,  
Helsinki and Wageningen University

タカナシ乳業では、下記の3つの研究のほかにも、さまざまな研究をしています。

■ インフルエンザに関する研究  
ヒト腸内由来の乳酸菌をマウスに経口投与するとインフルエンザウイルス感染を防ぐ Lett. Appl. Microbiol. 51(1); 6-10 (2010) Manabu Kawase, Fang He, Akira Kubota, Gaku Harata, Masaru Hiramatsu

■ 大腸炎に関する研究  
Lactobacillus GG発酵乳はDSSで誘導した大腸炎を予防しEGF-βの活性化を介して腸管上皮の恒常性を調整する Eur. J. Nutr. 53(1); 105-115 (2014) Kazutoyo Yoda, Kenji Miyazawa, Masataka Hosoda, Masaru Hiramatsu, Fang Yan, Fang He

■ 肥満に関する研究  
食餌で誘導された肥満モデルマウスの肺の免疫反応におけるLactobacillus GG経口投与の影響 Microbiol. Immunol. 59(2); 99-103 (2015) Kenji Miyazawa, Kazutoyo Yoda, Manabu Kawase, Gaku Harata, Fang He



タカナシ乳業株式会社  
商品研究所所長 農学博士  
何方(He Fang)